

マザーハウス

たより

あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。
あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。



2021

2 月号

♪移送・出所される方は必ずご一報ください。
MLP (文通) に参加している方は文通相手へ
のお手紙のみ出して頂ければ大丈夫です (差出
人欄の住所で確認できるため)。MLP に参加し
ていない方は事務局にご連絡ください。
♪23ページのお知らせをご確認願います。

- 2 理事長挨拶
- 4 社会の声①
- 12 育児日記
- 12 ささきみつおコーナー
- 14 堀の中のたより
- 16 つぶやき!
- 19 回復プログラム 入門
- 19 ラブリー-DAYS
- 20 社会の声②
- 21 健康相談窓口
- 22 プリズムアート倶楽部
- 23 行事予定

光りん

表紙..光りんさん
「まっすぐ、ぐんぐん伸びてね!」

理事長挨拶

皆さん、こんにちは。緊急事態宣言が延長となり、不自由な状況ですが、神様に祈り、心の平安を願うばかりです。千葉、横浜刑務所でクラスターが発生し、関係施設で過ごされている受刑者は不安で仕方ないと思いますが、私の貧しい祈りですが皆様のことをお祈りしています。

刑務所側が面会を制限していますが、面会は更生・回復にあたって重要なことであり、感染者が出たから面会させない、ではなく、オンライン面会等に対応すれば良いと思います。刑事施設収容者法によると、第146条1項に「刑事施設の長は、受刑者（未決拘禁者としての地位を有するものを除く。以下この款において同じ。）に対し、第八十八条第二項の規定により開放的施設において処遇を受けていることその他の法務省令で定める事由に該当する場合において、その者の改善更生又は円滑な社会復帰に資すると認めるときその他相当と認めるときは、電話その他政令

で定める電気通信の方法による通信を行うことを許すことができる」とあります。受刑者自らが自分たちの権利をしっかりと申し立てるべきであり、刑事施設視察委員会や上川陽子法務大臣に書面で申し入れをするべきであると思います。何故なら、日本では声をあげないと何も変わらないからです。私ができることは神様に祈ると共に、報道や関係部局及び衆参の法務委員会に申し入れをすることぐらいいです。一番大切なのは、一人ひとりが自分の更生・回復のために自らがどう行動するか、ということだと思っています。自らの更生・回復のために法律で認められている行為や権利を主張することはとても重要であると思います。私は恐れることなく進むべきであると思います。出る杭は打たれますが、出すぎた杭は打たれません。私は受刑中、徹底的に更生のために動きました。その結果、今の自分があると思います。おかしいことはおかしいと言えることが大切であり、それが誰であっても私は言っています。だから嫌われます。特に刑務所は嫌っているようですが、それもいいと思っています。何故なら仲間たちが更生・回復の道を歩んでいるからです。

ちなみに、アメリカでは、刑務所の中で同僚受刑者に願箋の書き方や法律図書の使い方などの手助けをする受刑者をプリズン・ローヤー（長期刑の方が多いようです）と言います。彼らは施設内での自由が一定程度保障されているそうです。

文通をしていながら、最後に文通相手に捨て台詞を言ってやめた受刑者がいました。その方は文通している間、見せかけの綺麗事を言って自分を誤魔化しながら交流していたのだと思います。それに何の意味があるのでしょうか？相手に対して失礼であると思われています。そして人を大切にすることができないから今の場所にいるのだと思います。

また、文通相手に依頼事をすることは如何なものかと思っています。それは自分の欲望、欲求を満たすための自分本位の行動であり、相手を道具のように考えている、あるいは甘えている部分があるのではないかと思います。相手を尊重しているなら、そのような行動はしないのではないのでしょうか？文通のルールとして皆さんにお願いしている基本的なことを守って頂きたいと思っています。文通ボランティアの皆さんも、自分の子供であると思つて、常識に反することは厳しく叱って頂ければ幸いです。社会は甘くありません。文通で表面的な交流を上手く続けていても、社会に出た時に厳しい現実には直面すると思います。

受刑者の皆さんにお知らせです。フランシスコ事業部に関して質問がありました。アマゾンの送料は無料にはなりません。プライム会員になれば送料が無料になる、とのことですが、これは直送だったり対象商品があったりで、刑務所によってはアマゾンの直送に對して受け取りをしない所もあり、マザーハ

ウスでは利用できないことが多いので、フランススコでは全ての購入商品に対して送料がかかります。また、キャンセルはできませんので、よくお考えの上、ご注文ください。なお、受領書が皆さんの手元に届くまでタイムラグが生じており、ご迷惑をおかけしておりますが、ご理解・ご協力のほど宜しくお願い致します。

年金に関する調査をご希望の場合は、基礎年金番号が必要なため、当法人が送付した委任状に必ず年金番号を記入してください。分からない方は、拘禁証明書を同封して頂ければ調査致します。年金手続き代行の費用は2000円になります。年金事務所に行く必要があるため、手続きに時間がかかることをご了承ください。

先日、仲間がG刑とT刑から卒業してきました。二人とも受刑歴は二十年近くで、社会が全く変わってしまっているため、浦島太郎状態でした。一人はもう七十歳を超えており、私が年金の手続きをした関係で住所を変更したり預金口座を開設したり、様々なサポートをしました。子どもたちとも対面し、お菓子をプレゼントしてくれました。最近生まれたばかりの赤ちゃんを抱っこするのが「怖い」と言って、顔を見るだけでしたが、赤ちゃんはニコニコ笑っていました。彼は、子どもたちと会うのが楽しみだったと言っていました。私は受刑中、彼と一緒に工場で作業した

こともあります。二人とも生活保護申請の手続きをしました。社会にしっかりした土台を作ってほしいです。今はゆっくり焦らずに社会に慣れていければと思っています。

別紙、お知らせでも皆さんにお伝えしますが、事務所の住所が変わります。自宅と事務所のマンションの大家さんが部屋の更新をしないと通告してきたのです。理由は、子どもがうるさくて迷惑しているということです。

自宅と大家さんの部屋が近く、築年数も古いので、言われても仕方がないと思いますが、更新二か月前に突然一方的に言われてびっくりしました。慌てて自宅と事務所を新しく探すこととなり、神様にただただ祈り求めました。そのような状況でも、情状証人、面会、出所者の対応など、全く休む暇がありませんでしたが、不思議と動く力が沸き上がってきました。しかし、突然来られた方が、「入浴させてほしい」「お金がほしい」「お腹すいた」などなどと言ってきて、立て続けに話を聴いていると、やはり減茶苦茶疲れてきます。その方はどうも多重性人格障害を抱えているように思いました。また、心に深い傷があると感じました。そういった対応に必死に追われていましたが、神様が自宅も事務所も与えてくださいました。とても大変な状況ですが、引き続き、祈りと愛の実践を通して活動していきますので、今後ともよろしくお願い致します。



tatsuyaさん

社会の声

学生の感想①

■立命館大学での犯罪学の講義後に寄せられた感想をご紹介します（一部抜粋。最小限の誤字脱字・句読点以外、原文ママです）。

まず、元受刑者という境遇から、NPO法人を立ち上げるまでに至った背景に、マザーテレサから受けた影響や、支援者の方々などの様々な出会いがあったことを拝聴させて頂いた時、「元受刑者だから」という理由で社会復帰が難しい現状を打破出来る手段は、努力によってリカバリーすることが可能なのだと感じた。

次に、現在の刑務所における問題点について、①社会復帰に繋がる具体的な更正プログラムが整っていないこと、②刑務官による受刑者の人権を無視した言動によって、受刑者と刑務官間の立場の差が明確化されているこ

とが問題であると述べられていた部分について。犯罪学の講義を受ける以前から、私自身が刑務所における問題点として想像していたイメージとほとんど差がなく、私のような、刑務所での生活を経験したことのない人間でも想像が容易い問題点であるのに、それが現実においても問題点として挙げられている現状こそ、問題であると感じた。また、長年その現状に対する問題提起が続いていても、未だに改善が見受けられない刑務所が多々存在する現状に違和感を覚えた。

また、受刑者に対する接し方について、「どんな人間であれまずは信じる」「犯罪者として接するのではなく、一人の人間として接する」と仰っていた点について、私が今働いている一時保護所での、家庭内暴力や軽犯罪で入所してくる児童に対する向き合い方についても、適応することが可能であると感じ、参考になった。

罪を犯してしまった人々も、一般の人々と同じように「より幸せな生活」を送りたいだけだという想いは同じであるのに、なぜその幸せを追求した結果が「犯罪」であり、また「再犯」してしまうのかについて、「孤独」が原因であると感じたことに對し、やはり社会全体で犯罪者に対する偏見や差別を失くしていくことが必要であると感じた。社会全体の意識として、犯罪者に対する固定観念が非常に根強く、社会復帰後も元受刑者だと知る

や否や社会的立場を奪っていく部分が強いように感じる。そういった部分を改善していくためにも、犯罪学に関する授業を、大学の専攻科目のみに留まらせず、義務教育下でも積極的に取り入れるべきではないかと感じた。

☆



一兵さん

一番共感できたのは、五十嵐さんが中盤に仰っていた、「再犯の防止に一番大切なことは人との繋がりにある。触れ合い、共に生きていく事が現状の制度には欠けている」という部分です。口で言うのはとても容易で、実現するためには課題が山程ありますが、これこそが間違いなく刑罰や更生に向けた措置の核心であると感じます。残りの人生をどう歩んでいくかはもちろん当人の心に健全な指針があるかどうかにかかわらず、その指針を打ち立てるためのサポートによってその方向性は大きく変化していくと思います。共に生きるという言葉の重みを慎重に受け止めながら、これからも更生とは何かについて学んでいきたいと思いました。

☆

受刑者の方は居場所がなかったり、人から必要とされることがなかったから犯罪を犯していたりと、自分は周りの環境に恵まれているからこそ犯罪に手を染めることがなかったのではないかと思った。自分自身も前科のある人のことを理解しないまま、偏見があり、犯罪を犯した人を遠ざけていたが、自分のような理解のない人間が受刑者の方を追い込み、再犯の原因になっていないのではないかと考えた。お話の中でもあったように、再犯させないために犯罪を犯した人に向き合い、孤立させないなど、共に社会で協力して生きて

いくことが大切であると感じた。また、自身を考えを改めて、毛嫌いすることなく犯罪を犯した人とも接していく必要があると考えた。

☆

刑務所と社会が隔絶されていることは、さまざまな問題を発生させてしまい、お互いが話し合う機会がないままでは、「そういうイメージ」としてお互いに近寄らなくなってしまう。犯罪を犯した側からすれば、社会に出ても誰からも必要とされていないし、刑務所にいる方が自分に合っているんだと思ってしまう人がいる。そして犯罪に関わったことがない人からすれば、犯罪を犯した人は異常な人で怖い、近づかない方がいい、なるべく隔離しよう、といった考えになる人も多い。しかし上記の場合は、お互いに一切コミュニケーションをとっていないから生まれる誤解であり、偏見であると感じる。実際にお互いが話し合ったり、コミュニケーションをとった場合では、「犯罪を犯した人だ」と聞いていたけど、あの人は普通の人だ」と言う方が多いと思う。法学部でこういった授業を通して、自分たちと同じだと気づけたことから、行動を起こすべきは犯罪者側ではなく、お互いを理解できている人が行動すれば改善されるものも多いのではないかと感じた。

☆

ボランティア活動を積極的にしていく理由が、五十嵐氏自身の経験や受刑者に対するアンケート等に基づく受刑者の性質や、元受刑者が一生懸命ボランティアすることで社会の人が受刑者を理解するきっかけになるということが原因にある、という説明がされており非常に理解しやすいと感じた。また、被害者、加害者という立場を分けるのではなく、互いに社会に生きるものであり、それぞれ違った苦しみがあるため、両者の苦しみを対等な立場で理解し、社会復帰するための支援をするべきであり、今後の活動では被害者、加害者を含めた「犯罪に巻き込まれた人」という分類で支援をしていきたいと述べられていた点について、これまでの授業でやってきたことはほとんどが受刑者、元受刑者の視点が多かったこともあり、自分も視野を広げるべきであると感銘を受けた。

☆

初め五十嵐さんが話し始めたとき、元受刑者の方とは思えないほど穏やかな雰囲気の話し方に感じた。五十嵐さんが受刑者であったころ、刑務官に対して反発ばかりしていたと聞いたが、全くそんな人には見えなかった。そんな五十嵐さんが、受刑者が更生するにあたって重要なことに、人との触れ合いや愛と

いうのを何度も仰っており、マザーハウスの活動内容も受刑者との文通等それに対応するものであるが、そのようにして受刑者と接して実際に更生するというのを想像してみたが難しそうに思った。五十嵐さんも何度も裏切られたと仰っており、しかし裏切った人がまた戻ってきたときに突っぱねず受け入れるというのは、自分にも普通の人にもできないほど心が深いとしても感心した。

今の日本の刑務所は受刑者の話を聞かないし受刑者が更生することはできないような仕組みだと聞き、受刑者の心のケアが更生への重要な要素となるのであれば、何か対応する制度を作るべきではないかと思った。受刑者の多くは自分の弱みを他人へ吐き出すことができず、孤立してしまっており、なかなか更生に繋がらないところを、マザーハウスの活動がその重要な部分を支えているのであるから、非常に社会的に意義があり、そして誰でもできるようなことではないかと思った。五十嵐さんの話を聞き、受刑者に対する価値観が少し変わった気がした。

☆

五十嵐さんのお話をお聞きして、授業内では日本の刑務所の実態を知ってはいたが、改めて当事者からの声を聞くと、もちろん犯した罪に対しての罰は与えねばならないと思うが、日本の受刑制度は罰としての側面があま

りに強く、更生や治療という側面が弱いということを実感した。特に、自ら変わりたいという意思を持つ受刑者の更生意欲まで失わせかねない刑務所職員の態度には問題があると感じる。

これらの問題には、刑務所の風通しを良くすることや刑務所職員の意識改革なども必要であるが、そのような仕組みづくり以前に五十嵐さんのお話の中にもあったように、犯罪者も一人の人間であり、犯罪をしたということ以外の人間的な部分を観察し、個別に受け入れたり叱責するなど人間としての関係構築が必要であると感じた。

☆

受刑者である以前に同じ人間なのだからと仰っていたのには同意できました。しかし自分の中では信賞必罰（＝功績があれば必ず賞を与え、罪があれば必ず罰する）という考えや、犯罪を犯した者には厳しいルールを科すことで人格の矯正や社会通念、倫理を身に付かせることができるのではないかという、犯罪者に対して厳しい思考や重大犯罪を犯した者を完全に同じ人間には同視できない思考がある。これは前科者たちと関わったことがなく本人達のことを知らないから偏見が身についてしまっているのだろうと考えるのだが、それとは反対に現在の日本の更生のさせ方ではなく、受刑者を一人の人間として認

識し罪を犯したのは個人が原因ではなく、その個人がおかれていた環境や周りが孤立させてしまったことではないかと考えたい自分もいる。自分だけではなく日本にいるマジョリティ（＝多数派）も、受刑者や前科者と関わることが少なく、偏見や本質を捉えることができていないことが多いと思う。

☆

刑務官の通したい指導の在り方と、受刑者が真に臨んでいる更生の方法に齟齬がある場合は、受刑者サイドへの負担が著しく大きくなり、その負担が反発の感情となって、社会へ出た後も再犯をしてしまい、また刑務所へ戻ってくるといふ悪循環を招く危険性があるのではないかと考えました。そして、もしこのような事態が発生し、受刑者の更生支援が不十分なままに刑期を終えてしまった場合に、これをカバーする団体がいかに重要なものであるかを改めて認識することができました。

今回の講義において、人には母親のような心のよりどころが必要であると仰っていましたが、まさにそのとおりであり、一般の社会に生きている我々でも悩みを打ち明けられる人間が周囲にいない場合は、これを解決できないままに心理的負担を強いられることになるケースが多々あり、受刑者ないし元受刑者の方々は、我々の母親にあたる人との関係に

問題を抱えているケースも多く、心のよりどころが我々以上に限られてくると思います。そんな中で自分を心から叱ってくれる人の存在というのは非常にありがたいものであり、また心のよりどころとしても大きな存在になっていくのではないかと考えました。

☆



一兵さん



今回の授業で感じたことは、改めて、受刑者という立場が社会的に排除され、社会復帰しにくい環境で生きていかなければならないのが現状なんだと感じました。受刑者といっても人です。けれども、社会においても、刑務所においても人として扱われないんだと思います。五十嵐さんの話のなかでもあったように、高齢受刑者の介護をしているなかで、「刑務所にいた方が衣食住が整っているし、相手をしてくれる人がいる」と言われたという話を聞いて、犯罪を犯した人は社会の片隅に追いやられるということを物語っているのだと思います。また、出所しても、住宅を借りる際に必要な保証会社がなかなか請け負ってくれないという話においても、犯罪を犯した者がいかに社会からはじかれるかということを示していると思います。

他方で、五十嵐さんはキリスト教を信仰されておられました。宗教の存在意義を再認識させられました。日本では宗教を信仰しない人が多い一方で、アメリカやフランスといった諸外国では色々な宗教が社会的背景にあります。では、なぜ宗教が存在するのかといったときに、人々の心の拠り所、心のオアシスの役割を担っているんだと思います。五十嵐さんも実際に、キリスト教の聖書に基づき、社会復帰をなされたとおっしゃられていたので、宗教が存在する意義を認識する機会になったと思います。

そして、最後には京都府の会議にも出席されているというお話のなかで、まだまだ法務省をはじめ他の自治体でも犯罪を犯した人に対する理解が欠落しているんだと感じました。どうすれば犯罪を犯した人が社会復帰をしやすいか、行政を含めみんなで考えていくことが必要です。私自身も、来年から公務員として働くので、今の社会にはこのような問題があるということを認識したうえで、ひとりひとりが生きやすい社会をつくりたい、本気でそう思っています。

☆

講演の中では、受刑者の方にどのように接しているのかというお話などされていました。例えば、「ダメなものはダメという。褒めるところは褒める」「過去は過去であるから、今後どうするかが大事」などのお話です。これらは、「受刑者に対してだから」ではなく、どんな人にも当てはまることだと感じました。私自身、高校生に対して外部指導する機会があるので、参考になりました。

私は、現在の日本の受刑者に対する処遇では、再犯者の数は減らないと考えています。五十嵐さんのお話の中にもあったように、治療の観点が不足していると考えからず。今日の講演を聞いてその界限に少し興味を持つことができました。とてもいい機会をいただきました。

☆

マザーハウスで実際に社会復帰を行うための手段として、子供との触れ合いを行ったり、ボランティアや文通を行ったりし、自分とは違うコミュニティの人たちと触れ合うことを行っていることを知り、社会復帰に必要なのは人と人の繋がりなのだと改めて感じた。

☆

刑務所の中では、授業で習った「特別権力関係」という圧倒的な権力関係があることを実感できました。私自身、「犯罪者」という言葉を聞くと無意識のうちに偏見を持ってしまいます。法を犯すという一線を越えてしまう人は世の中から外れていると考えてしまうところに理由があると思います。しかし、今回のお話を聞いて、犯罪をしてしまった人でも更生の意思を持って社会復帰していこうとする人はたくさんいて、それを支援する人もたくさんいるのだと気付かされました。「受刑者ではなく、人として見ることを大事にしている、人として対等に向き合う」という言葉に強く心を打たれました。犯罪者という言葉を作ってしまうこの社会では、この精神がとても大切なのだと考えました。これからは「更生」という側面だけでなく日常生活にもこの精神を持って生きたいと思いました。

☆

加害者支援も被害者支援も足りていないなかでの行政のこれからの役割が重要なのだと感じました。例えば、刑務所を出所した人の住居問題について、一民間の企業や一般の家主が、貸す相手の信用情報などから貸すのを拒否するのは貸す方としては至極当然のことだと思っています。そうした中で、お話の中にもでてきましたが、国や地方公共団体等の行政機関が、出所者の更生した姿などを積極的に見せることで、社会一般を動かすというのは、広範性を持ち、政策を経てそれを実行できる行政の役割だと考えました。

また、個々の分断ではなく、人びとのつながりが重要だという面については、特にSNSなどのコメントなどを見るたびに実感させられます。刑務所においては、刑務官の増員も必要になるかもしれませんが、よりケアに重点を置くようになってみてほしいのではないかと思いました。

☆

映画『ショーシャンクの空に』で描かれていた受刑者の言葉を思い出しました。刑務所の中だけが彼らの世界のすべてで、刑務所の外で生きていく方法は知らないままにされる終身刑は、ひとりの人生そのものを奪うものであるという言葉と、マザーハウスの方の活

動には同じ思いを感じました。また、受刑者の方との向き合い方に関して、「とにかく信じる」という言葉がありました。それが一番難しいことだと思いました。

私は受刑者が出所後に「人間らしい生活をしたい」と願うのは、傲慢ではないかと思っ てしまいました。犯罪の類にもよりますが、仮に傷害事件の場合、被害者の人生を変容させて「普通の生活」を奪ったのに、なぜ加害者には普通の生活を求める権利があるのかという疑問を感じざるを得ませんでした。ただ、自分の意見が極論でもあり、また無意識のうちに受刑者＝犯罪者だという目線で捉えていたことに気づくことができたので、有意義なお話を聞かせて頂きました。法律を学ぶ一学生として、犯罪学という学問に向き合う上で、多角的な視点で物事を判断することの重要性を再確認しました。



カブさん「救い」

☆

五十嵐さんのお話の中で一番印象に残ったこととして、犯罪歴のある人たちが出所した時に再犯率を低くするための教育や、孤独感の緩和などの働きかけをする中で法務省が前向きではないということである。リスクを恐れて新しい取り組みをせずに既存の枠組みに囚われる官僚の悪い性質が垣間見えた。本来ならば法務省が旗振り役として様々な取り組みをすべきなのではないだろうか。

これまでの授業で、日本が海外よりも更生が上手くいっていないのは、出所後の受け入れ先が少ないこと、国民の関心が低いことが原因であると考えていた。しかしそれだけでなく、刑務所内にいるときの出所後のための教育、刑務官の更生に対する意識が低いことも原因だと感じた。刑務官の人手不足で更生に力を入れるにくいならば、マザーハウスのような更生に力を入れている団体と協力して、刑務所内でも更生についての教育が行えるようになれば、社会復帰がより円滑に運べるのではないか、と思われる。

☆

犯罪者であることに変わりはないが、服役にあたって清算は完了したとして、その罪や罪の意識を周囲がまず許すこと、そして受け入れることも非常に大切であり、その環境改

善や意識のありかたは自分には足りないと感じた。自分が考えている以上に相手は敏感に感じ取っている。これは犯罪者を目の前にした以外にも当てはまることであり、恐怖などもあるがそれ乗り越え、まず一歩踏み込んで相手を理解することは今後のコミュニケーションでも大切な教訓としたいと感じた。

☆

主体的に生きるにあたっての根はやはり人の支えであり、社会に生きる者は皆困難を抱えているからこそ、その困難が顕在化した現象である犯罪に向き合うには、他人事で物体を扱うようにするのはなく、冷静かつ情のある視点は念頭に置くべきだと思います。五十嵐さんの話で印象的だったのは、子供に接することで他人への印象が再確認できるとおっしゃっていたことです。言葉にならないけれども社会性の核心のようなものを認識するのに、一番確実で大事なものを思い出せるような気がします。

☆

まず、五十嵐さんは刑務所の問題点について多く言及されていたが、刑務所は受刑者の声を聴かないということに問題を感じながらも納得してしまった。なぜなら、受刑者は犯罪を犯したものであり、ある程度の制約を科

されても仕方ないという考えがよぎったからだ。

五十嵐さんは、被害者に手紙も書けないと憤られていたが、遺族が加害者からの手紙が届き、どう感じるか考えた時、少なからず消極的な感情を抱くのではないかと思う。刑務所は更生のための施設ではあるが、自己満足のための手紙を遺族に送り、受刑者の要望を際限なく聞くことは目的外といえる。

他にも、社会性を身に着けるために、子供と触れ合うということを提案されていたが、これもやはり危険なのではないかと考えた。子供は近くにいる大人を見本にして成長するため、子供の情操教育（＝感情を豊かにし、物事に対する考え方を深め、心を育てる教育）上問題がある気がしてならない。

☆

住居の確保が難しいという話は僕も似たような経験があるのでよくわかりました。僕の場合はクレジットカードの返済を忘れていて、以来ブラックリストに載ってしまったらしく、新しくカードを作ることができず、本当に困っています。これに関しては数年で解消するかもしれませんが、前科というものは一生背負うことになるのだと考えると、例え更生できたとしても一生苦勞することになるのだらうと思います。

更生段階での課題については、できることはすばいのに法務省が動いてくれないという意見が印象に残りました。そもそも法務省が受刑者の更生をそこまで重視していないのではないかと思いました。最近、「犯罪者は一生刑務所に入っていて欲しい」と知人との会話の中で言われ、受刑者に対しては更生のことだけを考えていた自分との意見の相違に驚きました。ひょっとしたらそれがマジョリティーな意見なのかもしれないと思いました。各所が受刑者の更生に動きづらいのはそういう事情もあるかと思います。その認識の違いをどう埋め合わせていくのが初歩的な課題になるのではないかと思います。

☆

今回の五十嵐さんのお話で、「間違ったことやおかしいと思ったことを相手がしたら本気で叱る」と仰っていたことが最も印象的であり衝撃的でした。この話を聞いて、反射的に「そんなストレートに叱るのか、私だったら氣を使ってしまう」と思いました。しかし、その後に、犯罪をしたとか関係なしに対等な立場で、おかしいと思ったことに關して叱ると聞き、自分の意識が無意識のうちに変容していたということに氣が付きしました。私自身も、犯罪者に限らず、障がいを抱える人や何らかのマイノリティ（＝少数派）を抱える人についてラベル付けをし、疎外することのな

いようにする必要があると考えています。ですが、偏見を持つことはなくても、氣を使うということが間接的にその人を遠ざけ、対等な立場に立っていないということに氣が付きしました。偏見を持つことがないように、といった「くすることがないように」という意識が自分の中で、かえってその考えに固執しすぎて変容してしまうことがあるということに氣が付き、私自身が持つ価値観をいい意味でひっくり返すことができ、目から鱗が落ちた！という状態になりました。

また、先生も仰っていたように、五十嵐さんのアグレッシブさにとても驚きました。私自身もそうですが、「こうだ」と頭の中ではいろいろ考えますが、実際にそれをもとに動くことができるかといったなかなか難しいように思います。しかし、「これが必要だ」と思ったら動いてみなければ始まらないのも事実だと思います。その中で、小さなことでもやれることからやってみればいい、というスタンスは私も見習いたいと思いました。なかなか動けない理由の一つに、何でも大きなことを描いてそこから手を付けようと思うから、しり込みして身動きが取れないことも多々あります。やれることを確実にというのは一見シンプルですが、意外とすべての物事に対して共通することだと思いました。

お話のなかで、刑務官の方や神父さん、司法修習生の方に聞いたエピソードが多数出て

きましたが、ここに関しても、今までの経験や人との関わりの中で得たものをきちんと自分の中に落とし込んで糧にしているという印象を強く受けました。幼いころから当たり前に家族がいて友人がいて、関わり合う人がいたために、自分はそのままで、これまでの人生においての経験や出会いというものを意識していなかったと感じました。しかし、これらの経験やその時感じたことを通して、いつも必ず自分の中で譲れない芯を持ち続けることが、今につながるのだと、お話を聞いていて感じました。

今回のお話では、もちろん犯罪をした人たちの社会的支援の在り方といった側面で新しい視点から学べたこともありますが、なによりも、これから自分が生きていく中で何が大切なのかといった人としての自己の本質的な部分で自分を見直すいい機会になりました。残念ながらデバイスを通じての講義になってしまいましたが、大学生の今、聞くことができて、本当に有り難いと感じています。

☆

今回のお話を聞いて、現在の時代背景が受刑者の方々の更生の足かせとなっていると感じた。お話の中にあつたように、インターネットが普及した現在では、誰でもその名前をインターネット上で検索すればその人の前科等がわかってしまう。それによって、実社会での

更生の機会が失われてしまっている。また、仮に更生システムがより優れたものになっても、無事に更生を果たし社会復帰をしたとしても、その人の過去を知った周囲の人々の冷たい視線を感じて、社会を拒絶し、他人の視線を避け、自分の殻にこもり、誰にも相談できず、結局再犯を犯してしまうという負のスパイラルが生じ得るのではないかと思う。

受刑者の社会復帰を達成するためには、更生システムの構築に加えて、社会復帰する元受刑者の方々を適切に色眼鏡で見るこのような社会作りが必要であると感じた。

☆

お話の冒頭で、前科三犯の元受刑者ということを知った瞬間に身構えてしまう自分がありました。今までの犯罪学において犯罪者も人間であり、私たちと置かれてきた環境ぐらしか違いがないということを読んできて、わかったつもりではいたのですが、実際に元受刑者であった五十嵐さんの話を聞いた時に偏見を覚えてしまった自分に少し驚きました。お話を聞かせてもらってからこのような偏見をなくしていくために何が必要なのかと個人的に考えたのですが、やはり元受刑者の方などのお話を聞いたり本を読むことこそ、理解につながるのかなと考えました。

お話の中で、刑務所について、更生施設として機能していないとのことでしたが、刑務

所の本来の機能の再確認とそのためのルールの実施において、実際にそのルールを守る必要がある受刑者、そのルールを受刑者に守らせる刑務官、そして第三者である一般市民の参加が必要ではないかと私は考えました。受刑者のニーズ、刑務官のニーズ、そして第三者による公平な判断を持って正当な刑務所のルールが定められると思います。さらに、一般市民の参加によって、閉鎖的であると言える刑務所の実情について理解が深まることでしよう。このことは、結果として受刑者の社会復帰に大きく貢献すると思います。

☆



光りんさん

「星はまたたき、月は巡る」

五十嵐さんのお話の中で特に印象深かった点は二点ありました。

第一に、「岐阜刑務所内では受刑者の声がなかなか聞き入れてもらえず、更生できないと思った」という点です。なかなか受刑者の方の声が刑務官に聞き入れてもらえない実情があるということを講義でも学習しましたが、犯罪被害者の学びがしたいとか被害者には手紙を出したいとかいう声が受け入れてもらえなかったということを実際にお聞きし、改めて刑務官と受刑者の立場に大きな格差があることを実感しました。

第二に、「困難」についてのお話です。重大事件を過去に犯した人の名前・前科・前歴がインターネット上で割れているため、彼らは信用保証会社で理由は教えてもらえないまま弾かれてしまうなど、住居・就職先を探すのが大変ということが印象的でした。最近では、ツイッターなど、拡散機能が付いているSNSも多いため、前科前歴が付いているがために住居・就職先を探すのが困難な人は増えてきているのではないだろうか、と思いました。

以上、二点が印象深かった点です。最後に、母となって間違っていることを叱ってあげたり良いところを褒めてあげたりして、「どんな人間でも信じてあげることが大切にいる」という信念が素晴らしいと思いました。

私たちはついつい偏見の目で見てラベルを貼ってしまいがちですが、五十嵐さんがおっしゃったように、犯罪をしてしまった人も一人の人間です。同じ社会に共に生きる人間として、助けを求めている方々にスツと手を差し伸べて、守るだけでなく力を与えることができる社会を構築していくことが望まれると思います。

—つづく—



五十嵐亜利沙（妻）による

育児日記

長男のA君は、学校から帰宅して夕方疲れてくると、私が「宿題やらないの?」と言うと、「今やろうとしてたんだよ……うるさいな!」と散々悪態をついた後、「かまってほしいんだよ!」と抱きついてきます（笑）。また、「そんな可愛い子に悪い言葉は似合わないよ」と頭をなでると、尻尾を振った犬のように甘えてきます。とっても分かりやすいです。

長女のKちゃんと次女のRちゃんは、おままごとと一緒によく遊んでいます。何かで争いが起これると必ずRちゃんが「もう、Kちゃんと遊ばない!絶対!」と言うのですが、そうするとKちゃんが必ず「わかったよー!ごめんね」と直ぐに折れます。私たち夫婦のやり取りとそっくりです。もちろん折れるのは夫です（笑）。

三女のMちゃんは、何をしても可愛いです。心から可愛いです。可愛いすぎです。間違いなく天使です。

ささきみつお コーナー

史上最大のグッドニュース

一・福音とは何か!

ある大きな伝道集会の講師として招かれた時のことである。多忙のため全く準備ができなかった上に、集会の前の晩は仕事で徹夜になってしまった。

ぼくとした頭で会場に向く。私の話を聴くために、数百名の参加者がぞろぞろと入場している。でも、話のテーマも決まっていない。「一体、何を話したら良いのか……」。

たまたま開会前、講師控室で、一人で祈る時間が与えられた。必死に祈っていると、「伝道集会だから、『福音』について語ろう」という思いになった。

「そもそも、『福音』とは何か?」。クリスチャンにとっては日常用語であっても、未信者の

方々にとってはピンとこないのではないかな。

スマホで「福音」と検索すると、新約聖書の原語のギリシャ語で、euangelion（ユーバングリオン…良い知らせ）と出た。どれほど良い知らせなのかというと、ローマ軍が戦争で勝利したという知らせを持って早馬で駆け付けた伝令が、ローマ皇帝にそれを伝えた途端に力尽きて死んでしまうほどだ。「死んでも良いから伝えたい!」「死んでも伝えなければならぬ!」。それほど、最高の良い知らせなのである。

では、聖書の「良い知らせ」とは何か? もちろん、「キリストの十字架の死と、その三日後の復活によって、神に対する人の罪が赦され、永遠の命を持つ神の子になるんだ!」という知らせである。

二．史上最大のグッドニュース

そう考えた瞬間に、「そうだ、福音とは、私の人生最大のグッドニュースだ!」「人類の史上最大のグッドニュースだ!」とひらめいた。

「皆さん、今日は福音を伝えに来ました。福音とは何でしょうか? 福音とは読んで字のごとく、『良い知らせ』すなわち『グッドニュース』です!」と、講壇に立って話し始めたら、私の内側で聖霊が火のように燃えてきた。

「それでは、聖書の福音とは何でしょう? 聖書の福音とは、私の人生最大のグッドニュースです! 人類の史上最大のグッドニュースです!」と叫んでいた。お腹の底から喜びが湧き起こってきて、興奮して無我夢中で話し続けた。十分の一も話さないうちに六十分の制限時間が過ぎてしまった。

「皆さん、非常に残念ですが、私の話はここで打ち切りです。もし話の続きをお知りになりましたら、会場の外で販売されている私の本を買って読んでください!」と締めくくった。驚いたことに、閉会后、本を買うために長蛇の列ができ、用意された百冊近くがあつという間に完売になった。私の内で何かが爆発したのだ。「この福音を語ったら、もう本望だ、もう死んでもいい!」。そういう燃える思いで語っていたのだった。

三．福音は大爆発だ!

「芸術は爆発だ!」と岡本太郎は言った。この言葉は、「全身全霊が宇宙に向かって無条件にパァッとひらくこと。それが爆発だ。人生は本来、瞬間瞬間に、無償、無目的に爆発しつづけるべきだ。いのちの本当のあり方だ」と続く（『自分の中に毒を持て』（青春文庫）より）。

ならば私は、「福音は大爆発だ!」と言いたい。福音を信じ受け入れるなら、その人の

内側に大爆発が起きる。それによって、自分の力で生きよう生きようともがいていた古い人は死んでしまう。その代わりに、神の永遠の命にあふれて生き生きと生きる新しい人が誕生する。その最大の象徴が、キリストの十字架の死と復活である。この福音によって、人々が神の子になるという大爆発が、世界中に起きているのである。



tatsuyaさん

塀の中のたより

受刑者からこんなお手紙が届いています

刑務作業だからと言って手を抜くと、
外でもできない

サ・ヴァ・アレさん

私事ですが、早いもので、気がつけば現在の工場に来てから一年以上の時間が流れた。移った当初は、以前の工場にいる仲間に対する申し訳なさもあり、なかなか前向きになれなかった。

作業はするけど「心ここにあらず」という言葉が当てはまっていたはず……。なので、立役にはなりたくないし、もうなれないだろうと思ってもいた。多分、その日その日をただ乗り切ること自分も充分だと感じていたし、そうすることが一番楽だと思っていた。

そうした自分が、運やタイミングが味方してくれたおかげで、立役（班長）に抜擢されることになった。人生とは思わぬことが起きるものだと思えて感じさせられた。こうして自分は作業に対しての考え方を変化させなくてはいけない場面に至った。以前の工場の作業よりも地味で、正直なところ、「残念な作業」に入るような気持ちでいた自分は、モチベーションが上がらないと以前のたよりに書いていた方の気持ちが分かる。どうしても楽な方へ気持ちの流れが流れてしまうものなのだ。

どうすれば良いのかと思案していた時に、ある人の言葉を思い出していた。前の工場でも仲良くしてくれた人の言葉だ。彼は自分よりも年下なのだが、いつも作業を懸命にしており、自分は「どうしてそこまでするのか？」と感じ、彼に尋ねたことがあった。返ってきた言葉は、「刑務作業だからと言って手を抜く人間は、外でも一生懸命できないと思う」というものであった。この言葉は本当に重みがあった。まるで自分のことを言われているように感じた。

現在の工場でもモチベーションが上がらなかった自分は、久々にこの言葉を思い出した。それからは以前よりも前向きにやれているのではないかと思っている。前述の言葉をくれた彼とは離れてしまったが、彼の言葉はしっかりと自分の中に根付いている。本当に感謝している。

基本的なことができていない刑務官

Y 刑 T さん

刑務所では、刑務官から名前を呼ばれたり、注意・指導を受けたりしたときに返事をしないでいると、「返事しろ」「分かったか」と言われます。また、「勝手な自己判断をせず分からなければ聞け」と言われます。確かにこれらは生活する上での基本だと思います。しかし、この基本ができていない刑務官も僕は多いと思います。

僕は舎房の配食係をやっているのですが、アレルギーや宗教上の理由から、食べられないメニューがある人の舎房には、「○○禁」というマグネットが貼ってあります。ある日、「牛肉禁」の部屋があり、その部屋には別のメニューを配る必要があるのに、その日配食についた若い職員が分かっていなかったのので、「オヤジ（＝刑務官）、これ禁物です」と声をかけました。すると、おかしは手に取りましたが、こちらのことは無視。さらに、どこの舎房が分かっていない様子だったので、「○室です」と教えました。それも無視でした。

こんなこともありました。プリクラを柵の下段に見えるように置いておいたら、夜勤の若い職員に、「プリクラは写真と同じ扱いだ

から、飾るなら写真立てにしないさい」と注意されました。でも、今まで言われたことがないし、そもそもプリクラが写真と同じ扱いというのも初耳だったので、そのことを伝えて、「担当に確認します」と返事したところ、「今直さないの?」と言われました。カチンときましたが、「直すよ」と言い、その場は終わりました。しかし、その何分後かに、その職員が夜勤班長に確認したところ、プリクラは大丈夫とのこと。「大丈夫だって。ゴメンネ」と言われました。まず、班長に確認する時点で、自分は分かっているのに注意したことになりますし、「大丈夫だって。ゴメンネ」というのもおかしい言葉遣いです。この二件のように、懲役にあれこれ言うのであれば、まず自分が基本をできていなければ、言うべきではないと思います。



きりさん「天道」

移送中の出来事

大阪のピーちゃんさん

朝食後に荷物をまとめるように言われ、そのまま移送待ちの部屋へ移動して一日を過ごすことに。自分の荷物検査があるのですが、写真（1500枚ぐらい）や雑誌の切り抜きが山のようにあり、調べ官からかなり色々と言われ、相当落ち込みました。翌日、起床とともに慌てて朝食を食べ、歯を磨く間もなくすぐに施設を出発。護送車に乗って、外の世界へ十四年ぶりに出ましたが、朝の早い時間ということもあり、本当に多くの学生や会社員とすれ違いました。行き交う人全員がキラキラと輝いて見え、それに比べて自分は長期間に渡っての刑務所暮らし。「一体、自分は何をしているのだろう。家族に申し訳ない」などと思っていたら、いつの間にか車内で一人で泣いていました。

やがて地元の駅に到着。しかし、当日は数々のアクシデントが：駅弁が無かったのもショックでした。前日の巨大台風の影響で、どこのお店も入荷を見合わせており皆無…。そのため、コンビニ三件を回ってもらい、食料をかき集めるといふ緊急事態に（汗）。ファミマで人気だという「チョコ好きのためのチョコクロワッサン」などを入手。そして八時過ぎ発、特急ソニックに乗って小倉駅まで。

そこから十時前発、のぞみ十八号に乗って京都駅まで。この列車内で、護送の職員さんが、「本当は肉が沢山入った、いい駅弁を買ってあげようと思っていたんだけど、ごめんな」と言っておられたけど、コンビニランチは結果的にボリュームたっぷりのごちそうで、自分は大満足でした。新幹線内ではひたすら食べていました。途中で自分の町が見え、自宅の近所が見えた時には、思わず声に出して「うわー！（喜）」と言っちゃいました。親や友人たちの顔を思い浮かべ、心の中で「必ず近い内に戻ってくるからね」と、地元を見ながらつぶやいていました。

それにしても京都駅はものすごい人で、本当に移動が大変でした。そして特急サンダーバードに乗り、目的地のある駅まで。迎えの護送車に乗ったのが午後二時過ぎでした。目指す刑務所まではたったの八分で到着。町中にある施設ですが、古くて小さめの建物です。ここへ来るまでの道中、実に沢山の学生がおり、どの駅の学生も私の姿を見て皆一様に、「見て！捕まってるー！」と言っていました。一体、何人に言われたのだろうか。本当に惨めで辛かったです。

この施設には色々な訓練・教育を兼ねて来ていますが、ここでは今までの自分の経験がほぼ通用せず、何から何まで違うことだらけで、かなり混乱しています。しかし、優しい職員さんが多くてとても有難いです。現在は、

入所後に行われる新人教育中で、独居生活中。各独居部屋に扇風機がついていたり、すべてのテレビにリモコンがついていたり、冬場はホッカイロが変えたり、などなど、書き出したらきりがなくぐら驚きの毎日です。自分の足でこの地までやってきて思ったことは、社会復帰するにあたって、また一歩、大きく前進できたなということです。道中、沢山の社会の人たちを目の当たりにして、ますます更生への意欲が湧いてきました。しっかりと無事故で務めあげたいと思います。



カブさん「救い」

「塀の中のたより」のボリウム少なめ版です

つぶやき！

テレビや雑誌などのメディアから、「出所したら行きたい食べ物屋さん」をノートに控えている受刑者の実に多いことか。しかし、実際に出所後にノートに控えたお店に行ったという人は意外にいません。私も今まで三回の服役で、食べ物屋さんやコンビニスイーツなどノートにメモしていましたが、特にお店の方はメモしたどのお店も結局行くことはありませんでした。ちなみに、受刑者が出所後すぐに立ち寄るお店の第一位は「コンビニ」です。

(ヒマワリさん)

☆

物事を点ではなく線で見る。点だけで見ると、見落とすこともあり、本質も見誤る。線で見ることで、点で見たときに理解できなかったことも（人の言動や状況など）理解できることがある。

(誉さん)

☆

先日、感覚過敏の七歳の女の子の作文を新聞で目にした。花火の音が爆弾のように聞こえる。レストランでハンバーグやカレーの匂いで気持ちが悪くなり吐いてしまう。「なんで私だけ」「普通になりたい」と嘆くも、来年度入学する弟のステキな先輩となるため頑張りたい、と話す。自分は今どれだけ恵まれているのか。今の境遇にもっと感謝しよう、もっと大切にしようと思う。

(誉さん)

☆

「ある日いつものように店でコーヒーを頼むと、『コーヒー代はもうお支払い済です』と言われた。どういことかと尋ねると、『さっき、ある方がコーヒー二十人分と言って代金を前払いしたんです。お客様は八人目なんですよ』と店の若い女性はニッコリ笑った」：以前本で目にした逸話。

前払いした人の感性の美しさに心を打たれた。Pay Forward(ペイ フォワード＝恩送り)という言葉がある。自分が人から受けた親切や優しさを、その人に返すのではなく、別の人に施すというもの。今日の善い行いは明日には忘れ去られてしまうかもしれない、けれども人としてこうありたいものである。

(誉さん)

☆

人の言動に怒りや嫌悪を感じることがあるということは、自分の言動が人に怒りや嫌悪を与えていることがある、ということ。人に誠実さや優しさを感じる必要があるということは、自分も人に誠実さや優しさを感じさせることができる、ということ。人から何かを感じたとき、自分はそういうことをしていないか、あるいは、そういうことをできているか、考えてみたい。

(誉さん)

☆

哀しみをそよ風に。不安をやすらぎに。孤独をぬくもりに。怒りをほほえみに。絶望を希望に変えて、今日より明日の如く。

(Y刑 Fさん)

☆

朝礼時、担当さんのお話。「先日のプロ野球で、巨人の選手が2000安打を達成しましたが、大変な記録を達成しました。何が大変かという、継続して安打を出し続けたことです。一試合に三本も本安打(ホームラン)を出しても、次の試合には安打すら出せない。そのような選手よりも、毎試合コツコツと安打を出し続ける選手の方が高く評価されると思います。大切なことは、小さなことでもコツコツと継続していくことだと思います」。

私は、このことは依存症治療や再犯防止にも言えると思いました。毎日コツコツとスリップをしない、犯罪をしない日を積み上げていくことが大切であります。「今日一日だけ」では駄目なのです。

(F刑 Kさん)

☆

ダルクの方が、「常々、今日一日だけ、薬を使うのを止めようと思っている」と話していましたが、私も出所したら、「今日一日だけ、犯罪をするのを止めてみよう」と思うようになります。きっとそれが五年になり、十年になつていくのだと思いますし、更生は気付いた時にしているものではないでしょう。

私も一つ歳をとり、一つの節目を迎え、人生の折り返しをしたことで、今までは迷って悩んでいたことも、迷っている暇がなくなり、色々な自分に気付きます。

(F刑 Sさん)

☆

僕たち人間は、一度大きな災害や事故に巻き込まれたり、大きな病にかかったりすれば、簡単に死んでいく身にもかかわらず、生きているのが当たり前で死んでいくのが特別なことのように思っています。実は今日こうして生きていることは決して当たり前のことでは

ないはずです。今日こうして生きているのが当たり前だと思えば、今日一日を感謝しない。感謝しないと今日一日を大切にしない。大切にできなかった今日一日はつまらないものになってしまいます。しかし、今日一日に感謝でき、大切にしてお過ごしることによって、今日一日が素晴らしい一日になるのです。そして、それを続ければ、きっと素晴らしい人生になると思います。また、日々の当たり前前に感謝すれば、自然と他人や周りに気配りができて成長させてくれます。

そして僕は思うのですけど、自分を変えたいと思い、それを実行して行動しないと自分を変えられないと思います。嫌々やらされていると思っている間は、自分を変えられせん。

(虎の恋人さん)

☆

真面目に普通に生活を送っている方々が苦労をし、私たちのような者が国に守ってもらっていること、本当に辛いです。私などは、神様に会って日も浅く祈り方も自己流ですが、朝夕、必ず社会で苦しんでいる方々を思い祈り続けております。月一度のグループ教誨や個人教誨に出席し、教えを受けております。まだまだ御言葉の意味を理解できておりませんが、聖書を読み続けて日々を送っております。そしてそんな簡単に御言葉が理解で

きると思っていまませんが、聖句の中で自分ができることは行動に出すようにしています。ですが、反省と悔い改めの日々です。そして赦しとは何かと考えていますが、分かりません。生まれてこの方、良いことよりも悪いことをしてきたのが人生の半分以上ですから、最期まで神様から赦してもらえないかも知れませんが、私はそのように思っております。ですが、祈ること、一つでも神様に赦して頂けるのではないかと考えてもいます。教誨師の先生にも、祈り続けることが大事だと教えられました。

私は今まで甘い考えて生きてきましたし、その結果が、受刑生活二十年近く、計七回という結果に出ていると思っています。親の死も教えてもらえず、これが親族の私に対する評価だと思っています。今回の務めでは、対人関係も色々ありました、良くても悪くても私から一歩下がって謝るようにして、喧嘩は一度もしておりませんし、口論もありません。何かが私を変えてくれたのだと思っております。

(N刑 Sさん)

☆

先日読んだヘレン・ケラーのエッセーから紹介します。ヘレンが、森の中を一時散歩してきた友人に、森の中にどんなものがあつたかと尋ねると、友人は「別に何も」と答え

ました。ヘレンは、森の中を歩いてきて「別に何も」無い、なんてことがどうして言えるのだろうかと思ったそうです。「目の見えないうちから、目の見える皆さんにお願いがあります。明日、突然目が見えなくなってしまうかのように、すべてのものを見てください。明日、耳が聞こえなくなってしまうかのように、人々の歌声を、小鳥の声を、オーケストラの力強い響きを聞いてください。明日、触覚がなくなってしまうかのように、あらゆるものに触ってみてください。明日、嗅覚と味覚を失うかのように、花の香りを嗅ぎ、食べ物を一口ずつ味わってください。五感を最大限に使ってください。世界があなたに与えてくれている喜びと美しさを讃えましょう」。

私たちに必要なことは、時おり五感を研ぎ澄ませて世界の素晴らしさを感じ取るのだと思います。視覚も聴覚も持たなかったヘレン・ケラーは、私たちがどれほど恵まれているかを気づかせてくれました。私たちの周りや私たちの内側にある大切な宝物を、視覚、聴覚、味覚、触覚、嗅覚という自らの五感を使って私たちは直接味わうことができます。当たり前のように過ごしている日々、神様の恵みが溢れているのだと深く感じ、その恵みに感謝し切れていない、気づいていないことを反省しました。

(M刑 Sさん)

☆

私が以前参加した性犯罪再犯防止プログラムでは、プログラム中に、指導員やカウンセラーの方が、「今ここにいらっしゃる皆さんが真剣に取り組んでいるから、私たちにできることは可能な限りしてあげたい」「お願いの仕方やモノの言い方にもよるけど、それは私たちに限らず一般社会の人たちと同じ。社会に戻ってから、周りの人や行政の人たちを頼ることは必ずあるだろうから、相手の人に何かをしてあげたいと思ってもらえる人になってほしい」「幸せになってほしい」と言ってくれたことがありました。このように私たちのことを同じ人間として丁寧に扱ってくれましたし、社会からのサポートが得やすくなるようにとの思いを持って私たちと関わってくれました。ただ管理しているだけではないと感じました。

(H刑 Mさん)

☆

僕のいるN刑務所では、矯正指導日に課題作文というものがあり、毎回色々な作文を書くのだが、過去のを幾つか挙げると、「春の思い出」「夏の思い出」などの思い出シリーズ(と、僕の中では呼んでいる)から、「自分の好きなところ」「優しさとは」「幸せな老後とは」「死ぬということ」などの価値観に関するものや哲学的なもの、「被害者に対して今思うこと」「再犯をしないために」「暴力

とは」などの犯罪に関するものまで様々ある。過去を振り返ることは大切だし、自分と向き合う上で過去はとても重要だ。書き出すことでより客観視することができるとし、自分の感情の整理になり、自分の傾向を知ることによって対策も立てられ、問題行動の回避にも繋がると思う。

ただ、おかしいと思うことがある。それは、それら課題作文に対し、担当と処遇区で評価がつけられる点だ。評価は、良い・普通・不十分の三段階ある。その評価について、学校のテストや成績表のように戻ってくることもなく、どんな評価がなされるのかは分からないままだ。最初に矯正指導日と書いたが、何の指導もされないのに、指導日という名がついている。僕の仲の良い同囚は、白紙で提出を続けているが、それに対しても何も言っていないし、指導もされないらしい。課題作文は刑務所内の評価のためだけのもので、そこに更生改善や矯正に対する目的はないのだと思う。

(youすずめさん)



雪兔さん

回復プログラム入門

★このコーナーでは、自分の心を書き出す練習をします。マザーハウスの回復プログラム(冊子)に既に挑戦しておられる方も、ぜひ取り組んでみてください。

【コツ】綺麗に書こう、丁寧に書こうとせず、リラックスして、出てきた思いをそのまま乱雑に書き出す。後でやろうと思わず、数行書くだけでも、今やってみる。

【補足】よろしければ、皆さんとの分かち合いとして、書いた内容を編集局にお送りください。基本的にはたより掲載の予定ですので、掲載を希望しない方は掲載不可と明記してください。

★今月号のテーマ…【楽しい】

(以前も同じテーマに取り組んだ記録がある方は、今回の記録と見比べてみましょう)

- 一・最近、「楽しい」と感じたことはありませんか。それはどんなことですか。
- 二・私がいつも「楽しい」と感じることでできるものは何ですか。
- 三・反対に、「楽しい」と感じられないことは何ですか。

五十嵐亜利沙(妻)による

ラブリイDAYS

ある朝、入れ歯をしていない夫を見て、「犬みたいな顔をしているね」と言ったら、「ワンワン」と言っていました(笑)。



tatsuyaさん

社会の声

学生の感想②

■岐阜保健大学での講義後に寄せられた感想をご紹介します（看護学部一年生より。最小限の誤字脱字・重複文以外、原文ママです）。

—つづき—

私は五十嵐氏の話聴いて思ったことが三つある。

一つ目は、看護師は誰にでも手を差し伸べられる存在であること。二つ目は、目の前の人を愛することは難しいということ。三つ目は、人とのふれあいではどんなものにもなれるということです。

一つ目について、五十嵐氏は話をしている中で、「目の前の人に手を差し伸べることでできる看護師になって欲しい」という言葉を

何度も述べていた。五十嵐氏は刑務所にいる最中、風邪や腹痛になってもらくな治療は受けさせてもらえなかったと経験話をしてくれた。私は、日常生活で頭痛がすれば頭痛薬を飲み、筋肉痛があれば湿布を貼るというあたりまえをすごしている。なので、五十嵐氏の刑務所内では人権がないという言葉と、刑務所の現状を聴きかなりショックを受けた。

彼はそんなつらい経験をしたからこそ、我々看護師を志す者たちに伝えたかったのだと思ったし、私自身もそうであるべきだと思った。犯罪を犯した人であろうと、価値観が違おう人であろうと、困っていたり苦しんでいたら、迷わず手を差し伸べ、「助けて」の言葉に耳を傾けられる看護師でありたいと思った。

二つ目について、五十嵐氏はキリスト教に出会い、目の前の人を愛しなさいという言葉に救われたと述べていた。

しかし、五十嵐氏は人を愛することは難しいと述べていた。私自身もそう思った。うわべだけの言葉ではその人との信頼関係は築けない。その人の痛みや感情を理解して初めて信頼関係が築けるのだ。その人の痛みを理解することは苦しく、本当の意味で人を理解するということは重く、とても難しいと思った。

三つ目について、五十嵐氏は被害者の方と面談したことがあると話していた。彼は一部

の被害者の方から「罪は忘れてはいけなくても、幸せになってください」といわれたと聞いていた。

私はその話を聴いたとき、その言葉に心が打たれたし、言葉は本当に人を不幸にも幸せにもできるのだと思った。生かすも殺すも言葉一つなのだ。五十嵐氏は彼らからの言葉に救われた通り、一つのその言葉でこれからの人生頑張ろうと思えた。その一つの言葉で人の人生が一気に変わるので、いかに言葉というものが大切なのか感じられた。

今回の五十嵐さんの話を聞き、私はどんな看護師になりたいのかをもう一度考えた。

私は人に寄り添える看護師になりたいと思っている。今回の件で、ただ物理的に人のそばにいてではなく、ひとりひとりと向き合い、目を向け、耳を傾け、その対象となる人の痛みや感情を理解し、本当の意味で必要とされ、寄り添える看護師になりたいと思った。こんな看護師になるために、今の私は言葉を今よりもっと大切にしようと思った。ネガティブな言葉ではなく、人を元気にできる、励ますことのできる言葉を日常から積極的に使っていきたいと思いました。

—つづき—

看護師 中谷先生による

健康相談窓口

マスク

まだまだ肌寒い日が続いていますが、季節は向春へと移行していきますね。皆様、いかがお過ごしでしょうか。一月から、今年最後の健康維持増進ケアモデルの講座のため、Y県施設にお邪魔しています。二月八日が四回目です。ラストになります。男性、女性ともークラス十名と制限されていますが、緊急事態には影響されず、実施できました。その中で、マスクの取扱いが大変になりましたので、ご参考にして頂けたらと思います。

新型コロナウイルスの感染予防として、布マスクが一人二枚支給されているかと思いますが。もしかしたら、施設によっては枚数や素材などの相違があるかも知れません。皆様、布マスクはどのように洗濯していますか？下着と同様に洗濯に出しているのでしょうか？それとも、ご自身で洗剤を用いて洗って干して使用しているのでしょうか？ご自身で洗濯

する場合には、ご注意頂きたいことがあります。以下八点にまとめてみました。

- 一．マスクは毎日必ず一回は交換して下さい。
- 二．洗濯洗剤を用いる場合、つけ置きを十分ほどして下さい。
- 三．洗濯洗剤をマスクの布にしっかりと浸透させて下さい。
- 四．洗う場合は、自身の手も洗ってからマスクの洗濯をして下さい。
- 五．洗う方法は、ごしごし洗いではなく、押し洗い（洗面器などに入れて、手で上から押したり、離したりといった動きを繰り返します）をして下さい。
- 六．布に洗剤を染みこませるような感じで洗って下さい。
- 七．洗剤はしっかりと水で洗い流して下さい。
- 八．洗濯後は、全体が乾燥してから使用して下さい。

コロナウイルスは、遺伝情報としてRNAを持つRNAウイルスの一種で、粒子の一番外側に「エンベロープ」という脂質からできた二重の膜を持っています。ウイルスは自身で増えることはできませんが、粘膜などの細胞に付着して私たちの身体に入り込んで増えます。脂質を含んでいますので、石鹸成分でウイルスを除去することができます。

そのため、手洗いも引き続き重要な感染対策です。マスク装着、マスクの取扱い同様に、

手洗いもしっかり行い、感染の機会を一つでも外していけるようにして頂きたいと思います。

先日、東京新聞の記者の方に「刑務所での新型コロナウイルス感染に関してどう思うか？」の意見を求められました。私は「コロナに関わらず、集団生活をしている限り、感染症の対策はすべきである」と答えました。そして、そのためには、施設の体制はもちろんですが、刑務官の、受刑者の健康に対する知識も増やしていくことが重要であるとお伝えしました。例えば、施設で対策が整えられたとしても、感染症対策は百パーセントにはなりません。それだけでは不十分です。やはり、生活される方々の健康意識も変える必要があります。そのために、健康講座のような教育機会をとどころに入れて頂きたいと切に願います、ということも併せてお伝えしました。

社会復帰を促進するためには、まずは健康が必要不可欠です。今は、コロナ対策同様に、ご自身の健康に関しても振り返る機会かと思っています。ぜひ、ご自身の健康に対して自信があるかどうか？振り返ってみてください。その中で、課題を見つけ、今日から取り組んでいきましよう。ご相談は受け付けますので、自分自身の身体に寄り添ってみてください。皆様がご自身の人生をより豊かに歩んでいきますように、願いを込めて、健康維持啓蒙活動が続けて参ります。

専門インストラクター ニロ先生による

プリズムアート倶楽部



★このコーナーは、絵画の模写を体験するもので、絵画技法の習得を目指すものではありません。模写（アレンジOK）の投稿を募集中です。★当技法についての詳細を知りたい方、また、作品発表等について考えている方は、規定が設けられているため必ずご相談ください。

【フォー・ユー】

【今月号のコツ】

バレンタインデーなどに贈り物をする方は、「フォー・ユー For You」の文字が入った絵のカードを添えて贈ると喜ばれると思います。

日頃お世話になっている方や、大好きな友人、家族、頑張っている自分への贈り物としても、絵を描いてみましょう。

贈り物を持つくまの周りに、小さく色々な種類の花を描き、葉っぱの蔓や茎で繋ぎながら、植物のリースのようなモチーフを描いてみましょう。

贈り物を持つくまの手は、上向きに描くと、贈り物を渡している様子を描くことができます。

くまの表情も、微笑んでいるような雰囲気描いてみてください。

ハートに目や口を描き、ハートの周囲を小さな点で囲むと、可愛らしさが表現できます。

バレンタインデーの日をイメージしながら絵を描いて、各自で楽しんでみてください。

形は、ハンドペイントの良さを生かして、不揃いでも、何でも構いません。見本の絵と全く同じではなく、アレンジして、楽しく描いてください。

絵は、自分の中のイメージを表現することが大切なので、自由に、楽しみながら、表現されてください。

【解説】

ボタニカルファインアート技法とパステルアートのコラボレーションで描いていますが、ボールペンや鉛筆等、入手し易い文具で描いてくださって結構です。

ボールペンは、PILOTの細いペン等が推奨されていますが、描きやすいと感じるもので良いと思います。

鉛筆は、形が見やすいように、B以上のもので濃く描くと、質感も柔らかく、描きやすいです。HBやH等ですと、固い質感の為、描きにくいかと思います。

文通をされている方は、見本の絵を色々アレンジして、便箋や封筒に描くと、楽しく可愛いアクセントになりますので、ぜひお試しください。

ご支援 誠に有難うございます！

2020年11月27日～12月23日の寄付金

合計：527,000 円

(別途 愛のプリズム宣教基金：6,000 円)

編集後記 by 編集局

お読みくださり有難うございます。今月はこの場を借りて反省文です。編集局では獄中POSTシリーズも扱っていますが、ここ一年ほどは毎月のたより発行で精一杯で、なかなか新作が追加できていない状況です。作者の皆さんや楽しみに待っている皆さんには本当にすみません…！！

行事予定

▼2/19 18:00～

APS研究会（オンライン開催）

▼2/20

当事者ミーティング

▼2/26 11:00～

東京地方裁判所刑事部にて、
情状証人として出廷

▼2/26 16:00～

墨田区障害者センターにて、講演

お知らせ

【重要】 フランシスコ事業部は、会費を全額納付された方のみのご利用となります。フランシスコ事業部を利用されない方は、会費の分納が可能です。なお、マザーハウスに送られた切手やお金は返還できませんので、あらかじめ資料をよく読み、計画的に送られるよう、お願い致します。

【重要】 下記に当てはまる場合は、事務局までお知らせ頂きたく、宜しくお願い致します。

○突然たよりが送られなくなった。

○刑期（出所日）が変更になった。

○切手やお金を送った後、2か月経っても、
受領書が届かない。

○入会申込書もしくは会費を送った後、2か月経っても、マザーハウスから何も届かない。

○年金に関する手続きを希望する。

○聖書（寄贈された中古のものです）の送付を希望する（送料800円分が必要です）。

【重要】 会費やフランシスコの費用を切手で納める場合（82円以上の切手のみ使用可）は、1枚につき現金交換手数料5円がかかります。
（例）100円切手×5枚の場合：500円－手数料5円×5枚分＝受領額475円

○たよりのコンセプトは、刑務所と社会の双方に向けて、「こういう意見・思いが届いています」と発信して橋渡しをすることなので、こういう考え・感性の人が刑務所・社会にいて、マザーハウスを通して自分と繋がりを持っている、という感覚で読んで頂ければ幸いです。

なお、投稿文以外の普段のお手紙から抜粋して掲載することがあります（受刑者の皆さんは、入会申込書に同意欄があります）。ですので、「掲載してほしくない」というお手紙・絵画につきましては、都度「掲載不可」と明記して頂きたく、よろしくお願い致します。また、たよりはマザーハウスのホームページでも公開されます。

マリアコーヒー（ルワンダ・コーヒー）

♪製造から販売まで、元受刑者が携わっております。

FAX: 03-6659-5270

メール: maria_coffee@motherhouse-jp.org (QR →)

価格: 粉200g または 豆200g …… 900円+税
カフェドリップ10g (1回分) …… 100円+税



☆継続して購入・販売してくださっている皆さま（順不同）☆

カトリック茅ヶ崎教会／カトリック北仙台教会／カトリック
所沢教会／カトリック浜松教会／カトリック東山教会／
カトリック布池教会／カトリック菊名教会／カトリック中
和田教会／カトリック新子安教会／カトリック碑文谷教会
／カトリック桃山教会（平和環境部）／カトリック東仙
台教会／カトリック春日部教会／カトリック足利教会／カトリック神田教会／
カトリック太田教会／カトリック大分教会／カトリック西千葉教会／カトリック
下井草教会／カトリック新潟教会／カトリック多治見教会／カトリック
芦屋教会／カトリック鷺ノ宮教会／カトリック松戸教会／ドン・ボスコ社
／クリスト・ロア宣教修道女会／日本カトリック神学院／聖母訪問会



☆ルワンダの祈り☆

ルワンダでは、1994年、フツ族によるツチ族の大虐殺
がありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワ
ンダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。

しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥り
かねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。
マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用し
ております。

獄中POSTシリーズ

♪獄中ボランティアの方が描いた絵画や文字を、
ポストカード・封筒・便箋等に印刷する企画です。

FAX: 03-6659-5270

メール: motherhouse.tayori@motherhouse-jp.org (QR ↑)

入手方法: 講演会等での販売のほか、ご注文を受け付けております。

☆ポストカード／封筒は1枚300円、便箋は10枚300円

☆ホームページにカタログ（随時更新）がございます。

☆収益は全て、身寄りのない方の住宅支援に充てられます。

また、ご寄付・ご支援くださった方に、デザイン等ランダム
でお贈りしております。



マザーハウスたより 21'2月号

発行日: 2021年2月15日 発行責任者: 五十嵐 弘志

〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-18-3F NP0 法人マザーハウス



↑ 理事長 Facebook ↑ 理事長奥さんブログ ↑ MLP問合せ

ラウレンシオ（便利屋業）

♪元受刑者の就労支援の一環として、不用品処理、遺品整理、
掃除などをさせていただきます。お見積りは無料です。
(2020年2月より、ルツ合同会社に移行しました。)

TEL: 03-6659-5260

FAX: 03-6659-5270

メール: lawrence@motherhouse-jp.org (QR →)



古本募金（きしゃぽん）

♪書籍やDVDを下記送り先にご寄付頂くと、
マザーハウスに還元されます。

送り先: 〒358-0053 埼玉県入間市仏子916

マザーハウス きしゃぽん係

(マザーハウス事務所に送らないようお気を付けください)

TEL: 0120-29-7000

カウンセリング

♪当事者やご家族の方を対象に、専門家がカウンセリングを行います。
※価格は別途かかります。

メール: counseling@motherhouse-jp.org (QR ↓)



お問合せ

いつも有難うございます。随時ボランティアの方を募集しております。

TEL: 03-6659-5260

メール: info@motherhouse-jp.org (QR →)

ホームページ: 「NP0 マザーハウス」でご検索ください。(QR ↓)



ご支援

☆正会員（一口5000円／年） ☆賛助会員（一口3000円）

☆社会復帰支援（ご寄付）を随時募集しております。

→振込口座名:

特定非営利活動法人 マザーハウス 【トクヒ）マザーハウス】

郵便振替口座 … 00170-0-586722

みずほ銀行 … 新宿支店 普通口座 2376980

☆洋服等の物資の送付先:

〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-18-1F マザーハウス

(TEL: 03-6659-2110)